

道内のコミュニティラジオ(開局順)

道内	全国	局名(周波数)	地域	開局日
1	1	FMいるか(80.7MHz)	函館市	1992.12.24
2	5	FMリバー(83.7MHz)	旭川市	1993.12.23
3	10	FMくしろ(76.1MHz)	釧路市	1994.11.1
4	12	FM WING(76.1MHz)	帯広市	1994.12.23
5	13	FM-JAGA(77.8MHz)	帯広市	1994.12.24
6	25	FMはまなす(76.1MHz)	岩見沢市	1996.3.15
7	33	FMわっぴー(76.1MHz)	稚内市	1996.7.1
8	34	ラジオカロスサッポロ(78.1MHz)	札幌市中央区	1996.7.20
9	35	FMおたる(76.3MHz)	小樽市	1996.7.27
10	60	FMアップル(76.5MHz)	札幌市豊平区	1997.4.7
11	81	三角山放送局(76.2MHz)	札幌市西区	1998.4.1
12	112	FMねむろ(76.3MHz)	根室市	1999.12.24
13	119	ラヂオノスタルジア(78.6MHz)	札幌市中央区	2000.4.20
14	132	FMメイプル(79.9MHz)	北広島市	2001.11.1
15	133	FMG'Sky(77.9MHz)	滝川市	2001.11.25
16	147	さっぽろ村ラジオ(81.3MHz)	札幌市東区	2003.4.1
17	155	FMドラマシティ(77.6MHz)	札幌市厚別区	2004.10.3
18	157	FMもえる(76.9MHz)	留萌市	2004.10.24
19	170	ラジオふらの(77.1MHz)	富良野市	2004.11.6
20	172	e-niwa(77.8MHz)	恵庭市	2006.3.3
21	172	Airてっし(78.8MHz)	名寄市	2006.3.27
22	200	with-S(83.0MHz)	札幌市白石区	2007.12.23
23	205	FMオホーツク(82.7MHz)	北見市	2008.6.1
24	207	FMびゅう(84.2MHz)	室蘭市	2009.8.1
25	208	FMはな(87.0MHz)	中標津町	2009.8.20
26	250	ラジオニセコ(76.2MHz)	ニセコ町	2012.3.31
27	284	wi-radio(77.6MHz)	伊達市	2015.4.30
28	325	FM-ABASHIRI(78.7MHz)	網走市	2019.2.1



▲日経TRENDY11月号

OKYO  
FMで毎週  
日曜日に30  
分の番組を  
持っている  
て「一人の手  
を借りずに、  
自分の声で意思を伝えら  
れるのは僕にとってはラ  
ジオしかない」と書いて  
いる。  
芸能人の語りは全国の  
人が対象となり、リスナ  
ーの数も桁違いに多い。

「テレビは本当に面白くない。コロナ禍の中で、スポンサーがつかないから、制作費の安いお笑い番組やクイズ番組で埋められている。札幌に本拠を置く道内ローカル局も自社の番組は似たり寄ったり。視聴者が飽き飽きしているのは明らかで、視聴率は下がり、広告売り上げは、公表されている数字より、もっと落ち込んでいる」

道内ローカル放送局の管理職は、視線を落としながら話す。そして、「ただ、ラジオは伸びているみたいですよ。ラジオを聞いている人が増えている」と分析する。

また、道内ラジオ局の元幹部は、「広告の売り上げが落ち込んでいっているのはテレビと同じ。ただもともと制作費や人件費がテレビ局よりかかっていないので、テレビほど傷は深くはない。CM料金が安いので、気軽にCMを出せることも幸いしているのではないかと話す。

コロナ禍で苦しむ道内で地域(コミュニティ)FM局の役割が増している。道内には、全国で最初に開局したFMいるか(函館)を筆頭に28局があり、それぞれの地域で特色ある放送を続けている。北海道全体に放送される県域放送局と違って予算規模や内容も違うがローカルな話題が道民に受け入れられているらしい。「ラジオの時代が来た」とささやかれる理由は何なのか。

(ジャーナリスト 黒田 伸)

時間帯がある。そのほかに、全道各地にはFMの地域(コミュニティ)放送局があり、コロナ禍の中で、地域密着型の放送で聴取率を伸ばしているという。札幌市内のコミュニティラジ



▲「FMおたる」に出演中の荒木麻美子さん(左)と筆者(中央)

オ放送の実情に詳しいパーソナリティの話。「今年に入ってから、リスナーさん(聴取者)が増えているような気がします。リクエストや近況

地域に密着したラジオ

こうした現象は全国的なようで、ビジネスマンの経済誌『日経トレンド』11月号は「すごいラジオ大研究」と題し、ラジオの特集号を発行した。

表紙に元SMAAPの木村拓哉を使い、「ラジオは自分にとっても命綱」として50ページにわたる特集記事を掲載している。キムタクは、現在もT

それだけに広告収入も大きい。コミュニティ放送局は、全国ネットや県域ラジオの合間を縫って独自の発展を遂げている。道内のコミュニティラジオは大別して3種類に分けられそう。一定の

放送を続けている局。広大な面積があるだけに道内には2019年2月に開局したばかりの網走市のFMを含めて28局ものコミュニティ放送局がある。

広告収入があり、安定的な経営を続けている局、行政主導で地域の魅力や情報発信に特化している局、そしてスポンサーや行政の支援を得ずに、オーナーの独自色を出して

全国初の「地域FM」函館から全国の「コミュニティ」の先頭を切ったのは、函館山ロープウェイが中心となつて設立された函館の「FMいるか」。

▲「FMいるか」の公式サイトより

1992(平成4)年12月24日のクリスマススイブに異国情緒豊かな函館市内や夜景が美しい函館山の模様を放送している。当時は、総務省で1ワットの出力が認められていたものの、標高33



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)